

ガラテヤ人への手紙は、パウロが書いた手紙の中でいちばん最初に書かれた手紙です。

ガラテヤは特定の地域のことではなく、パウロが第一次伝道旅行のときに教会を建てた、ピシディアのアンティオキア、イコニオン、リステラ、デルベがあった地域全体を指すことばです。ガラテヤ人への手紙の概論は、聖書プロジェクトのYouTubeの内容を見てください。

今日は、概論とガラテヤ人への手紙1章と2章の内容だけを見ます。

参考YouTube 「聖書プロジェクト（ガラテヤ人への手紙）」

<https://www.youtube.com/watch?v=5u8J2hGGYRU>

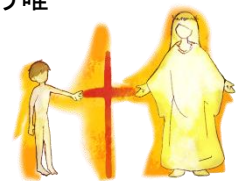
第一課 福音は神様がくださったこと

フォーラムの内容：ほかの福音とは何か？

ガラテヤ 1:1-5

- 1 人々から出たのではなく、人間を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によって、使徒とされたパウロと、
- 2 私とともにいるすべての兄弟たちから、ガラテヤの諸教会へ。
- 3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。
- 4 キリストは、今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自分を与えてくださいました。私たちの父である神のみこころにしたがったのです。
- 5 この神に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

私たちが信じて仕えている神様は唯一の神様です。ただ一人の神様です。その神様に会う唯一の道は、イエス・キリストだけです。それゆえ聖書は、イエス・キリストを「本当に喜びの良い知らせ」＝「福音」と言います。



ローマ 1:2-4

- 2 — この福音は、神がご自分の預言者たちを通して、聖書にあらかじめ約束されたもので、
- 3 御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、
- 4 聖なる霊によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。

「この福音は… 私たちの主イエス・キリストです」とあるように、聖書全体が福音であるイエス・キリストに関する記録なのです。その聖書を通して福音であるイエス・キリストを見ることになる者たちには、聖書はいのちの本になりますが、キリストを見ることのできない者たちには、聖書は戒めの本であ

り、呪いの本になります。旧約聖書の律法も同じです。パウロがローマ人への手紙で語っているとおり、律法を通して罪を悟り、自分自身が罪人であることを告白し、神の義であるイエス・キリストによつてのみ救われることを語らせることが、律法を与えられた目的です。

しかし、律法を単なる「法」として見て、一生懸命に守り、行おうとするユダヤ主義、パリサイ主義に陥った人々にとっては、律法は呪いになります。モーセが神様から受けた最初の戒めは何でしょうか。

出20:3

あなたには、わたし以外に、ほかの神があつてはならない。”

神様以外にほかの神々はあるでしょうか。ありません。これは、神様以外にほかの神々があることを認めることばではありません。ここでほかの神と翻訳されているヘブライ語の「アヘル」ということばは、「むだな、奇妙な、おかしい」という意味です。人は神のかたちに創造されました。神様のみに完全に依存して、神様だけを見上げて生きるように創造されたということです。そのような人間が、神様の座にほかのなにかを置くことが「むだなこと」であり「奇妙なこと」だということです。十戒の最初の戒めは、神様の唯一性を宣言する戒めなのです。

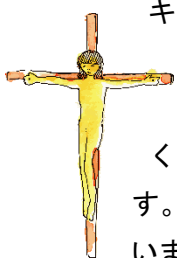
ガラテヤ 1:6-7

6 私は驚いています。あなたがたが、キリストの恵みによつて自分たちを召してくださった方から、このように急に離れて、ほかの福音に移って行くことに。

7 ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたを動揺させて、キリストの福音を変えてしまおうとする者たちがいるだけです。

6節でも「ほかの福音に従う」という表現をしています。「ほかの福音がある」と聞こえるかもしれませんが、パウロは7節で「ほかの福音はない」とはっきりと語っています。

ほかの福音とは、キリストの福音を変えることだと言っています。キリストの福音を変えることが何であるかを知るために、キリストの福音が何であるのかを知りましょう。



キリストの福音とは、罪過と罪によつて死んでいた私たちを生かすために、ひとり子イエスを十字架に与えてくださった父なる神様の愛であり、その父なる神様のみこころを抱いて、十字架にかけられ、死ぬまで従順にされて、強盗にあつて死んでいく私たちを生かしてくださいました。それによつて与えられた救いがキリストの福音です。このように一方的に与えられた救いの中には、人間側からの熱心、努力、義と功労は入っていません。それに関わらず、ガラテヤ地域の教会の中には、まだ律法を守ることや、割礼を行うなどの肉体的行為で救いを得ることができると、キリストの福音を変える何らかの者たちがいました。彼らはパウロの使徒の職分を否定し、批判することまでしました。ですから、パウロはガラテヤ人への手紙の冒頭のあいさつで、自分が使徒となつたのは、キリストと神の恵みでなつたのであるということと、キリストの福音の正確な内容から書き始めています。

ガラテヤ 1:1, 4

- 1 人々から出たのではなく、人間を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によって、使徒とされたパウロと、
- 4 キリストは、今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自分を与えてくださいました。私たちの父である神のみこころにしたがったのです。

パウロは、ここで福音を変えることについて、非常に強い表現までしながら叱っています。

ガラテヤ 1:8-9

- 8 しかし、私たちがあれ天の御使いであれ、もし私たちがあなたがたに宣べ伝えた福音に反することを、福音として宣べ伝えるなら、そのような者はのろわれるべきです。
- 9 私たちが以前にも言ったように、今もう一度、私は言います。もしだれかが、あなたがたが受けた福音に反する福音をあなたがたに宣べ伝えているなら、そのような者はのろわれるべきです。

ですから、ガラテヤ人への手紙1:6-9の各節で、ほかの福音と言っているのは、十戒の第一の戒めであったように、福音はイエス・キリストだけだということを強調するためです。

こんにち私たちも、自分も知らないうちに、キリストの福音を変質させる要因があるかもしれないことに注意すべきです。

みことばに対する自己中心的な解釈と理解

伝道と宣教に対する過度の熱心

教会と牧会者に対する盲目的な信頼と献身

自分の体験や経験などを福音だと思うこと・・・

それらに注意すべきです。



それゆえ、恵みで値なしに与えられた救いに感謝し、

どうやって、私のような者が神の子どもになったのか。

どうやって、イエス・キリストの福音を知り、その福音を語り伝える者になったのか。

どうやって神の国を待ち望み、すでに私の中に臨んだ神の国を味わいながら生きるようになったのか。

これらを感謝して、毎日、ただイエス・キリストと神の国を祈り、いまも私たちの中で福音のみことばを教え、悟らせ、伝道と宣教の働きをなされている聖霊の満たしを求めて生きる人生になるように願います。